

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ピアノⅢ	友永 和恵・大石 陽子	クラス分け	1単位	こども学科 2年次	前期	必修			選択必修	BGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
子どもの感性の発達に役立つ、子どもに寄り添う音楽を探究する。3、4年次の保育実習、幼稚園教育実習、施設実習を視野に入れて課題曲を確実に暗譜する。幼児を前にしている想定で演奏することを習慣づける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 童謡の意義の振り返り 基本的姿勢、タッチと音色	シラバスを読む。 明るく元氣な音を身につける	レッスンカードの 使い方を確認、毎週 の練習計画	9	歌詞の情景とフレーズ 季節の歌	歌詞の長い曲は表現 内容を考へて練習する	簡易版のない伴奏 の編曲の仕方を見につける		
	2	二長調のコードとベース 園生活の歌・登園	ハ長調と二長調の コードを練習しておく	ベース伴奏も並行 して使えるように する	10	ハ長調のコードとベース 生活・行事の歌	園以外で耳にする曲 や歌は分析的に語 論を考へて練習する	ベースの表現の重 要性を意識する。		
	3	息づかいとフレーズ 春の抒情的な歌	歌詞読みをして生 活の歌との違いを 感じ取る	情景を表す音楽的 表現を身につける	11	前奏を効果的に用いる よく知られた童謡	フレーズの区切りと 歌詞の関係を考へ 読み込む	スタックートの切 り方で表現が変 わることを学ぶ		
	4	問と答え 抒情的対話の歌詞	ベースの位置や区 切り方を考へ語り 掛ける表現を学ぶ	親子・愛情・絆に 関する童謡や歌を まとめる	12	マルカートとレガート 音の高さと音色	前奏が歌の旋律やリ ズムを含まない曲の 練習法を考へる	自己の表現方針・ 方法を決め編曲し 仕上げる		
授業の概要	5	付点リズムの連続と拍感 生活の歌	軽快な付点リズム の旋律を自由に弾 けるよう練習する	アクセントにより 表現が変わること を感じ身につける	13	変拍子に慣れる 生き物の歌	拍子が変わる曲の拍 子リズムを理解し て練習をする	特色を持った歌は 幼児に与える影響 を考へ表現する		
	6	ピアノの基礎訓練 主旋律と伴奏形のバランス	片手・部分練習で 技術を上げフレー ズや・形式を学ぶ	フレーズ感・呼吸 を意識し表現に繋 げるようにする	14	同名の曲・複数のペンネーム 夏の歌	作詞・作曲者を丁寧 に調べ曲の背景を知 る	弾きやすくなる コードの分散やリ ズムの練習法を考 える		
	7	成果発表 個別の目標を立てる	人に伝える、気持 ちを込める等を意 識して練習する	発表を聴き、感想 ・意見を述べ、 自分の演奏を振り返 る	15	表現の振り返り まとめ	実技試験課題曲の表 現方法を整理し暗譜 に取り組む	子どもの感性を高 める表現に努め、 完全に暗譜する		
	8	情景に合わせた強弱の解釈 楽譜の読み取り	教科書以外の楽譜 も調べ自分に合う 伴奏形で練習する	曲の強弱の変化を 読み取り、表現に 反映させ身につけ る						
教科書・テキスト等	ポケットいっぱいのうた(鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					期末試験(ピアノ実技)	80%	テンポ、フレーズ感			
					平常点	20%	毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ピアノⅣ	友永 和恵・大石 陽子・塩津 貴子	クラス分け	1単位	こども学科 2年次	後期	必修			選択必修	BGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
童謡を内容(言葉・歌詞、音楽性、情景・情感)から深く学ぶことにより、心身の発達を促す教材であることを認識する。子どもの歌の伴奏としてふさわしい表現ができること、そして基本の技術が伴った演奏ができるようになる。保育現場で通用する演奏を目指し、指定された曲を確実に暗譜で演奏する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ピアノⅠ～Ⅲの総括	自己の到達度を振 り返り、夏休みの 課題を仕上げる	よりよいレッス ンカード活用法を考 える	9	ト長調の分散和音 冬の行事の歌	ト長調のコードを復 習しておく	アウフタクトの開 始合図に慣れる		
	2	ハ長調の分散和音 行事の歌	躍動感のある明 い音のための打鍵 と拍子感を練習	確実な暗譜、幼 児を見ながら演奏 できるようにする	10	付点リズム 冬の軽快な歌	単純な音取りに終 わらず、語論を考 える大切さを知る	付点リズムの軽快 さを自然に出せる 練習法を考へる		
	3	二長調のコード伴奏 園生活の歌・登園	合理的な運指を予 習しておく	同名の他の曲につ いても調べて練習	11	両手伴奏とベース伴奏 元氣な童謡	基本コードから少 し発展させたCGにつ いて調べ練習	オリジナル又はそ れに近い前奏をつ ける意義を考へる		
	4	コードの形が変わる伴奏 園生活の歌・降園	アルペジオのみ、分散和音の みで伴奏しておく	伴奏部分と歌のな い後奏部分のバラ ンスや奏法を研究	12	旋律の弾き方・連打 リズムカルな歌	旋律のソルフェ ージュの予習をし つかりする	旋律のリズムが細 かい曲で効果的に 音を削る方法を模 索		
授業の概要	5	語りかける表現と音色 童謡の名曲	歌詞の内容とアー ティキュレーション に気を付けて弾 く	フレーズをしま り読み取り歌詞に 合った世界観を研 究	13	6/8拍子を考える 行事の歌・お別れ会	ハ長調のコード伴奏 (分散和音)を転ば ないように練習	左右の音階、旋 律と伴奏(役割) のバランスを研究		
	6	付点リズムの順次進行 秋のおそび歌	ハ長調の分散和音 を整理し、無駄な ない右の運指を練 習	童謡と一緒にリズ ミカルに弾き歌い できるようにする	14	ハ長調のベース伴奏 行事の歌・卒園	旋律とベースを別々 に練習してコードを 書きこむ	両手伴奏による弾 き歌いに発展させ る		
	7	音の風物詩 秋の抒情的な歌	オリジナル楽譜を 調べ、楽譜や表記 法を知る	原調二長調と園 園生活のハ長調を練 習	15	ピアノⅣの振り返り まとめ	旋律と歌詞、プレ スとフレーズを大切 にしながら暗譜	童謡の目的、効 果、勉強法をま とめる		
	8	連弾 アンサンブルを楽しむ	自分のパートの個 人練習に責任を 持って取り組む	お互いの演奏を注 意深く聴き、意見 を交わらせるよう研 究						
教科書・テキスト等	ポケットいっぱいのうた(鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					期末試験(ピアノ実技)	80%	テンポ、フレーズ感、「さなはい」等かけ声			
					平常点	20%	毎回の練習状況、レッスンへの取り組み姿勢			
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
幼児合奏指導Ⅰ	安部 和歌葉	単独	2単位	こども学科 2年次	前期	選択必修				AGH
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
現場での子ども達への対応、集団保育を想定した配慮事項などを活動を通して体験し、指導者としての自覚と能力を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション *授業と学修の進め方について	シラバスの確認 鍵盤ハーモニカの準備	次の授業に備える	9	カスタネットを使って *リズムアンサンブル *音合わせ遊び	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする		
	2	鍵盤ハーモニカの扱い方とその特性について	テキストの内容を確認しておく	授業の内容を活かして音を出してみる	10	楽曲演奏 ～選択曲を使って ① *曲選択によるグループ作り *担当分けと譜読み	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする		
	3	鍵盤ハーモニカの基本的な奏法	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	11	楽曲演奏 ～選択曲を使って ② *各パート練習	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする		
	4	練習パターンと楽曲演奏 ～独奏曲	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	12	楽曲演奏 ～選択曲を使って ③ *2パート練習 *ミニ発表会（グループ紹介）	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、グループ練習をする		
授業の概要										
子ども達にとって大事な協調性や協働作業を、音楽や合奏でどのように引き出していくのか、音（楽）の素晴らしいさやアンサンブルの楽しさを伝え、合奏指導する際の進め方を学ぶ。	5	楽曲演奏 ～二重奏	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	13	楽曲演奏 ～選択曲を使って ④ *ミニ発表会の反省と課題をもとに練習	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、グループ練習をする		
リード楽器（主として鍵盤ハーモニカ）演奏を中心に、演奏技術とともに現場での実践を想定して進めていく。	6	楽曲演奏 ～課題曲を使って① *譜読み	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	14	楽曲演奏 ～選択曲を使って ⑤ *グループ練習 *発表会準備	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、グループ練習をする		
	7	楽曲演奏 ～課題曲を使って② *各パート練習	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	15	楽曲演奏 まとめ *課題曲発表会 *選択曲のグループ発表会	前時の授業をもとに個人・グループ練習をする	学修のまとめをする		
	8	楽曲演奏 ～課題曲を使って③ *2パート練習 *合奏	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする						
教科書・テキスト等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション（ひかりのくに）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
					定期試験	20%	実技試験			
					毎時の振り返	30%	内容理解の深さと自分の考え			
参考書・参考資料等	鍵盤ハーモニカは、各自で準備すること。必要に応じて資料を配付する。				平常点	50%	積極性、理解度、協調性を持った活動態度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
幼児合奏指導Ⅱ	木村 博子・山ヶ城 陽子	単独	2単位	こども学科 2年次	後期	選択必修				ABC H
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
合奏における打楽器の効果的な使用法を理解し発展させる。指導者として、発想力、創造性を養い、実践できるようになる事を目標とする	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 授業計画等	シラバス確認	授業に備える	9	前回使用した教材曲を、効果的にアレンジしパフォーマンスを加える	教材曲を使用したアレンジを考える	授業で学んだ事を確認		
	2	現場で使用する打楽器の様々な奏法の修得	現場で使用する楽器を考える	授業で学んだ事を確認	10	身近にある物を楽器にして演奏出来るように、様々な奏法の発見	何が楽器になるかを自分なりに考える	授業で学んだ事を確認		
	3	現場で使用する打楽器の様々な奏法、調整の仕方を修得 ①	調整が必要な楽器を考える	授業で学んだ事を確認	11	身近にある物を楽器にして演奏出来るように、様々な奏法の発見、展開していく	自分なりに新たな奏法を考える	授業で学んだ事を確認		
	4	現場で使用する打楽器の様々な奏法、調整の仕方を修得 ②	調整が必要な楽器を考える	授業で学んだ事を確認	12	グループに分かれ、アンサンブルに取り組む	教材曲の練習	授業で学んだ事を確認、練習		
授業の概要										
幼児教育において使用される多数の打楽器の様々な奏法の修得。演奏する際の各打楽器の役割、表現方法を修得	5	現場で使用する打楽器の効果的な役割を修得 ①	効果的な楽器の使用法を考える	授業で学んだ事を確認	13	グループに分かれ、アンサンブルに取り組む、効果的にアレンジを加える	自分なりのアレンジを考える	授業で学んだ事を確認し、各パートの役割を理解し練習		
	6	現場で使用する打楽器の効果的な役割を修得 ②	効果的な楽器の使用法を考える	授業で学んだ事を確認	14	グループに分かれ、アンサンブルに取り組む、パフォーマンスを加え視覚的効果を修得	自分なりのアレンジを考える	授業で学んだ事を確認し、各パートの役割を理解し練習		
	7	声を楽器にし、ボイスパーカッションでリズムの効果的な表現法を修得	教材曲の練習	言葉でリズムのニュアンスの変化を感じる	15	これまで修得した事を総括し、発表する	発表曲の練習	後期で学んだ事を確認		
	8	体を楽器にし、各部位、奏法による音色の違いリズムの感じ方を修得	教材曲の練習	授業で学んだ事を確認し、練習						
教科書・テキスト等				成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
					平常点	60%	積極的な取り組み 内容理解 自身の考え			
					期末試験	40%	実技試験			
参考書・参考資料等	必要に応じて、資料配布、個人持ちの楽器やスティック、マレットを使用									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
幼児合奏指導Ⅲ	安部 和歌葉	単独	2単位	こども学科 3年次	前期	選択必修				ACGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
現場での子ども達への対応、集団保育を想定した配慮事項などを活動を通して体験し、指導者としての自覚と能力を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション *授業と学修の進め方について	シラバスの確認 鍵盤ハーモニカの準備	次の授業に備える	9	鍵盤ハーモニカとアンサンブル⑦ *グループ曲のペア練習 *グループ曲のパート合わせ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする		
	2	鍵盤ハーモニカの特性と基本的な奏法の確認	テキストの内容を確認しておく	授業の内容を活かして音を出してみる	10	鍵盤ハーモニカとアンサンブル⑧ *グループ曲の中間発表会 振り返りと評価・今後の計画	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする		
	3	鍵盤ハーモニカとアンサンブル① *独奏曲の決定 *グループ練習 (パート決めと譜読み)	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	11	アコーディオンの基本的奏法① *特性と扱い方、音域と奏法 *単旋律曲の個人練習	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする		
	4	鍵盤ハーモニカとアンサンブル② *独奏曲の練習 *グループ練習(個人練習)	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	12	アコーディオンの活用② *主旋律の曲奏法 *伴奏楽器としての活用	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、グループ練習をする		
授業の概要	5	鍵盤ハーモニカとアンサンブル③ *独奏曲の個人練習、伴奏合わせ *独奏曲の中間発表会 *グループ練習(個人・ペア練習)	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	13	いろいろな楽器とアンサンブル① *合奏室にある楽器を使って	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、グループ練習をする		
	6	鍵盤ハーモニカとアンサンブル④ *独奏曲の伴奏合わせ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	14	いろいろな楽器とアンサンブル② *グループ曲を使ったアンサンブル(グループ活動)	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、発表会に向けた練習に取り組む		
	7	鍵盤ハーモニカとアンサンブル⑤ *独奏曲の練習 *独奏曲の中間発表会	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	15	まとめの発表会 *独奏曲、グループ曲の発表会 *振り返り、評価、まとめ	前時の授業をもとに練習する	学修のまとめをする		
	8	鍵盤ハーモニカとアンサンブル⑥ *グループ曲の個人練習 *グループ曲のペア練習	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする						
教科書・テキスト等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション(ひかりのくに)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					定期試験	20%	実技試験(中間発表会、まとめの発表会)			
					毎時の振り返りワーク	30%	内容理解の深さと自分の考え			
参考書・参考資料等	鍵盤ハーモニカは、各自で準備すること。必要に応じて資料を配付する。				平常点	50%	積極性、理解度、協調性を持った活動態度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
幼児合奏指導Ⅳ	安部 和歌葉	単独	2単位	こども学科 3年次	後期	選択必修				ACGH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
現場での子ども達への対応、集団保育を想定した配慮事項などを活動を通して体験し、指導者としての自覚と能力を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション *授業と学修の進め方について	シラバスの確認 鍵盤ハーモニカの準備	次の授業に備える	9	応用指導演習① 「同じ曲を各年齢で取り組む際の指導内容」課題曲例「さんぼ」グループ活動 →まとめ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、気づきを記録・整理して		
	2	これまでに修得した楽器や楽曲の振り返りと確認	テキストや資料を読み直し、振り返る	授業の内容を活かして音を出してみる	10	応用指導演習② 「同じ曲を各年齢で取り組む際の配慮事項」課題曲例「さんぼ」グループ活動 →まとめ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、気づきを記録・整理して		
	3	合奏指導演習① 「指揮者・伴奏者・試演者」の3人グループで教材曲(2歳児向け)を使って模擬指導に取り組む	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	11	応用指導演習③ 「同じ曲を各年齢で取り組む際の支援の工夫」課題曲例「さんぼ」グループ活動 →まとめ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、気づきを記録・整理して		
	4	合奏指導演習② 「指揮者・伴奏者・試演者」の3人グループで教材曲(3歳児向け)を使って模擬指導に取り組む	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	12	応用指導演習④ 「同じ曲を各年齢で取り組む際の指導内容」課題曲例「世界に一つだけの花」グループ活動 →まとめ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、気づきを記録・整理して		
授業の概要	5	合奏指導演習③ 「指揮者・伴奏者・試演者」の3人グループで教材曲(4歳児向け)を使って模擬指導に取り組む	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	13	応用指導演習⑤ 「同じ曲を各年齢で取り組む際の配慮事項」課題曲例「世界に一つだけの花」グループ活動 →まとめ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、気づきを記録・整理して		
	6	*模擬指導の振り返り グループ同士で観察し合い、課題を見つけ、解決方法を探る	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、振り返り、記録・整理しておく	14	応用指導演習⑥ 「同じ曲を各年齢で取り組む際の支援の工夫」課題曲例「世界に一つだけの花」グループ活動 →まとめ	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、気づきを記録・整理して		
	7	合奏指導演習④ 「指揮者・伴奏者・試演者」の3人グループで教材曲(5歳児向け)を使って模擬指導に取り組む	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、個人練習をする	15	まとめの発表会 振り返りをもとに、グループで、部分指導計画を作成する。	振り返りをまとめておく	学修のまとめをする		
	8	*模擬指導の振り返り グループ同士で観察し合い、課題を見つけ、解決方法を探る	前時の授業をもとに練習する	授業での学びを活かし、振り返り、記録・整理しておく						
教科書・テキスト等	保育で使える合奏楽譜ベストセレクション(ひかりのくに)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					課題/レポート・実技	30%	実技試験(中間発表会、まとめの発表会)			
					毎時の振り返りワーク	20%	内容理解の深さと自分の考え			
参考書・参考資料等	鍵盤ハーモニカは、各自で準備すること。必要に応じて資料を配付する。				平常点	50%	積極性、理解度、協調性を持った活動態度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ハーモニーⅠ	中村 真貴	単独	2単位	こども学科 2年次	後期	選択必修			選択必修	CGⅠ
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
<p>本来の機能と声の基礎を学び理解したうえで、幼児期の音楽教育によりよい影響と楽しさを与えることの出来る指導者を育成することを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>ハーモニーⅠでは、昨今の幼児の音楽環境に対応し実践力をつけるため、コードネーム、キーボード・ハーモニーの基礎を学び、簡易伴奏付け、弾き歌いへと発展させる。</p>	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音楽の成り立ち、主要三和音と副三和音	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	9	歌唱曲（童謡）の分析と発展	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
	2	和音とコードネーム・キーボード ハーモニー①スケール	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	10	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル①伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
	3	和音とコードネーム・キーボード ハーモニー②カデンツ	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	11	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル②調を変えて伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
	4	和音とコードネーム・キーボード ハーモニー③コード	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	12	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル③メロディにコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
	5	和音とコードネーム・キーボード ハーモニー④これまでの復習	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	13	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル④メロディの調を変えてコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
	6	コードネームによる和音の連結（属7を含む）	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	14	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル⑤復習	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
	7	I. IV. V. V7による伴奏付け	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする	15	まとめ（総復習）	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする		
8	コードネームによる童謡の伴奏付け （片手伴奏、両手伴奏）	シラバスをよく読む	授業でしたこと の復習をする							
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				期末試験	60%	実技試験				
				課題/レポート	20%	課題への取り組み				
				平常点（態度・行動観察）	20%	受講態度				